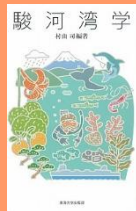


10冊トリロジーブックラリーに
参加してみませんか？



★キャンペーンは終了
いたしました。



『駿河湾学』

村山司／編著
東海大学出版部

駿河湾を切り口に、静岡の秘密を解き明かす一冊。海の恵みであるシラスやサクラエビから、深海に眠る海底資源、船を使った物流、さらには名産品のみかんやプラモデルと駿河湾の関係まで…。駿河湾から広がる静岡の多彩な姿を知ることができます。

10冊トリロジー



発行：富士宮市立芝川図書館

TEL: 0544-65-2802

ホームページ: <http://www.fujinomiyalib.jp>



芝川図書館 たけぼん通信 号外
富士宮市・芝川町合併 10周年記念号③

各駅本停車 ぶらり読書の旅

10冊トリロジー

第3弾



2019年は、富士宮市と芝川町が合併してから10周年を迎える年。それを記念して、テーマに沿った10冊のおすすめ本をご紹介します。最終号である第3弾のテーマは「学ぶ」。新しい考え方や、ものの見方を教えてくれる本を集めました。一見ちょっと難しそうだけど、目からウロコが落ちる快感は思わず癖になるかも…。ぜひ、お気軽に手に取ってみてください。



「トリロジー」とは3部作という意味です。

第1弾「見る」・第2弾「聴く」も
ご覧ください！





『学問からの手紙』
 ～時代に流されない思考～
 宮野公樹／著 小学館

学問は何のためにあるのか？それは、「迷うことを正面から受け止めることができるようになるため」…。情報が溢れる現代、周りに流されることなく自分の興味・関心を突き詰めて自分自身を知ること、すなわち「学問」の素晴らしさを感じてみてください。



『未来をはじめ』
 ～「人と一緒にいること」の政治学～
 宇野重規／著 東京大学出版会

政治哲学を専門とする大学教授が、中高生を対象に行った政治の講義を元にした本です。わかりやすい語り口で、資本主義や選挙制度の仕組み、その背景となった政治思想史について解説されています。誰もが一緒に、平等に未来へ歩むためのヒントとなる一冊です。



『うしろめたさの人類学』
 松村圭一郎／著
 ミシマ社

誰もが生きやすい公平な社会を実現させるには？カギになるのは不平等な状況に置かれた人々を見て感じる「うしろめたさ」、お金と品物のやり取りを越えた「贈与」、それに伴って互いに沸き起こる「感情」…。息苦しい世界を見つめ直す手助けとなる一冊です。



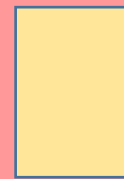
『死んだらどうなるのか？』
 ～死生観をめぐる6つの哲学～
 伊佐敷隆弘／著 亜紀書房

人は死んだらどうなってしまうのだろうか？仏教やキリスト教ではどう考えられているの？魂の存在は証明できるの？私の心をコンピュータで再現すれば、永遠の命が手に入る？でもそれは、「私の命」といえるの…？人類の永遠の疑問に、様々な視点から迫ります。



『古典は本当に必要なのか、否定論者と議論して本気で考えてみた。』
 勝又基／編 猿倉信彦ほか／著 文学通信

学校で古典を習っても具体的に何の役にも立たない！いやいや、豊かな心を育むうえで古典はとても大切だ！学者たちが「古典」を巡って繰り広げた論戦の記録。古典文学が好きな方も、古文の授業は正直いつもウトウトしていた方も、一緒に本気で考えてみてはいかがでしょうか。



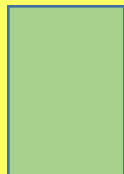
『ほんにやら数学のすすめ』
 森毅／著
 青土社

評論家・エッセイストとしても活躍した数学者による約30年前のエッセイ集。誰もが情報の発信者となる時代の予言や、少数派が生きづらくなる社会の構造、大学入試制度の問題…。30年を経て古くなるどころか現代だからこそ輝く知見の数々に驚くことでしょう。



『食べるとはどういうことか』
 ～世界の見方が変わる三つの質問～
 藤原辰史／著 農山漁村文化協会

「今まで食べた中で、一番おいしかったものは何？」この問いの答えで多いのは高級食材などではなく、「親の手料理」「友人とのバーベキュー」など、食事の状況が重視されたものなのだそうです。つまり「食べる」とは単に味覚を使うだけではない行為…。食を通して、新たな世界が見える一冊。



『人間の偏見動物の言い分』
 ～動物の「イメージ」を科学する～
 伊佐敷隆弘／著 亜紀書房

ネコは気まぐれ、忠実なイヌ、ずるがしこいキツネにのんびり屋のウシ。動物ごとに固定されたイメージって、ありますよね。一方で、外国の昔話では悪者のオオカミが、日本では神様として祀られていることも。そんな「動物のイメージ」の秘密をわかりやすく語ります。



『教養としての現代漫画』
 瀬木比呂志／著
 日本文芸社

日本を代表する漫画家について、その魅力と作風の背景を読み解く一冊です。手塚治虫や水木しげるから、高橋留美子、いがらしみきお、富樫義博、西原理恵子まで…。これを読めば、新たな視点で漫画をさらに楽しめるようになることでしょう。